

「これからの『働き方』を変える」

経営効率UPセミナー

クラウドを活用した、これからの「働き方」を変えるための「経営効率UPセミナー」は5月23日、金沢市の北國新聞交流ホールで開かれました。free株式会社(東京)の渡邊俊氏、サイボウズ株式会社(東京)の川畑穂氏がそれぞれのクラウドサービスの特長を説明しました。パネル討論では、freeの竹内龍太氏の司会で株式会社金城機代表取締役社長の土屋兵衛氏と税理士法人中山会計常務社員税理士の小嶋純一氏が「生産性向上と働き方改革」をテーマに意見を交換しました。

【主催】北國新聞社 【共催】free株式会社 【協力】北國銀行
【後援】石川県商工会議所連合会、石川県商工会連合会、石川県経営者協会、石川県中小企業団体中央会

クラウドで組織を変える



少人数で動ける

▼竹内 生産性向上、働き方改革について課題として感じている点についてお聞かせください。

▼土屋 一番は人手不足です。少ない人数で、特定の人がかりに業務が集中してしまう状況があります。人は少なくても効率的に動けるという風になんてはいいないと思います。会計ソフト「フリー」を導入しました。

▼小嶋 会計と経理といったバックオフィスの仕事は昔ながらのやり方そのまま引き継がれるケースが多いです。これらを現代版にアップデートするだけで生産性向上や働き方改革に大きな効果をもたらすと思います。

▼竹内 システムを導入される際、パソコンやタブレットに強い人は使いこなしてくれると思うのですが、弱い人の中には古いやり方から変わらうとしない人もいるのではないのでしょうか。

変化を受け入れ
▼土屋 会計ソフト「フリー」の導

業務の負担を軽減



土屋 兵衛氏
株式会社 代表取締役社長

情報と同時に共有



小嶋 純一氏
税理士法人中山会計 常務社員税理士

瞬間に「報連相」
▼小嶋 まず、「漏れ」、「ダブル」に入らなければいけない。業務活動の進捗状況は、営業活動に関わるスタッフは年齢が若く、変化を受け入れる人が多くいます。たまたまのスタッフにフィットしたやり方が何であるかを考えながら進めていきました。

▼竹内 フリーを導入した効果は、どうですか。

▼土屋 経理業務の仕事には、料理をつくる、経理を提供する感覚、しつらえという雰囲気づくりがあります。そういったところでは、フリーを導入して効率化を図るといふことはできません。直接的な効果も、なしの部分より間接的な効果、業務活動というところで積極的に導入し、効率化していかなくてはなりません。これから大切にしていく



数字を先読み、生産性向上
株式会社工所代表取締役社長の岩本純一さん

小松市でレーザー加工、板金溶接の鉄工所を営んでいます。財務状況に関してもっとダイレクトに、すぐに把握することができないかと漠然と問題意識を持っていたところ、北國銀行のコンサルティングチームから「フリーを使ってはどうでしょうか」との提案がありました。導入して3年ほどになりますが、利益状況などをタイムリーに把握できるので、非常に役立っています。法人プランを活用していて、当初は使い勝手が悪い面もありましたが、クラウドなのですぐにバージョンアップして問題を解決してくれるのはとても有難いですね。コストもそんなにからず、バックオフィスの生産性はかなり向上しています。省力化、効率化を進めるのに適した会計ソフトであり、常に数字を先読みし、設備投資などのタイミングを考えていきたいです。



スマホで入力、自動で処理
日本酒ハル「金澤酒館」店主の山上弘哉さん

実際にクラウド会計ソフトfreeを利用している企業や個人事業主の皆さんに使い勝手や特長を聞きました。

昨年7月、金沢市那珂町に飲食店をオープンしました。フリーを導入したのは開業にあたっていろいろ相談していた北國銀行さんから推薦があったからです。メリットが多く、十分満足しています。会計の専門的知識がなくても、基本的なパターンを入力すれば自動でいろいろ処理してくれるので本当に助かっています。自前で販売するのは初めてで、会計に関しては少し不安な面がありましたが、クラウドなので、北國銀行の担当者や税理士さんにも常にチェックしてもらえるのはいいですね。スマートフォンのアプリで数字を入力できるので、ちょっとした空き時間に作業ができるのも良い点です。個人事業主プランを使っていて、原簿率などをはじめ、毎月の収支状況をリアルタイムで正確に把握できています。

freee導入の メリット

渡邊 俊氏
freeeSMB事業部長

freeeは「スモールビジネスを、世界の主役に」というミッションを掲げ2012年に創業しました。中小企業向けにバックオフィス(企業の事務・管理業務の担当部門)のクラウドサービスを開発、販売しています。

会計ソフト「freee(フリー)」はサービス開始5年で100万事業所が導入しています。最近、株式公開準備段階のベンチャー企業で導入が進んでいて、資金調達をしているベンチャー企業トップ100の41

社にフリーを導入していただいています。

フリーで何ができるかというと、大きく3つあります。まず、簡単・自動化です。ワンストップでデータを入力でき、だれでも簡単に使えるサービスを目指しています。次にバックオフィス最適化です。社内での効率的分業により、重複作業をなくし、経理に関わる業務をフリー

バーやアプリケーションを作るシステムの開発費用は何千万円、大企業だと何億円もかかってしまいます。また、フリーでは金融機関の入出金明細を把握でき、提携している北國銀行では、ユーザーの経営データをリアルタイムで見ることができ、それにより適切な経営コンサルティングができる、といった先進的な取り組みを

リアルタイムで 経営把握

上で自動完結することで、経理業務の時間を大幅に削減します。3つ目は、クラウドにより経営状況をリアルタイムで把握できるようになります。

フリーは、コストが安くすむのも大きな強みです。サー

行っています。

フリーは他のクラウドサービスと連携できます。クラウドサービスをつなぎ合わせることで、経営全体のシステムを最適化できるのです。



kintoneが できること

川畑 稔氏
サイボウズ株式会社
ビジネスマーケティング本部

「kintone(キントーン)」は業務に合った仕組みを自分たちで作れるクラウドサービスです。1万2千社が導入し、大企業から小規模の企業まで、さまざまな業種で利用いただいています。

エクセルやメールで散らばっ

現場が必要な 仕組み作る

ているものを、キントーンに集約すれば、そこに必要な情報を入れるだけでいいので、チームワークが良くなる、という考えです。プログラミングなどは要らず、現場が必要な部品で業務に必要な仕組みを作っていくという形です。

キントーンもフリーと同様、様々なクラウドと連携活用することで、利便性が高まります。キントーンは色々なパーツを

組み合わせることで外部につながる仕組みを持っています。フリーとの連携は、かなり多くの方に使っていただいています。

働き方改革は、結局、無駄なことを圧縮し、本来やるべき業務への集中を実現することだと思います。そのために、フリーのような基幹のがっちりした製品とキントーンのような柔軟に周囲を包むシステムの組み合わせが重要だと思います。



パネルディスカッション「生産性向上と働き方改革」

▼竹内 料亭旅館も会計事務所も繁忙期の波があると思います。業務を平準化する部分で工夫されていることはありますか。

▼土屋 私どもの場合、繁忙期というより一部のみに業務が集中してしまうんです。リーダーとい

余力ができる

いなくてはならないのは本質的な企業活動です。料理のクオリティはもちろん大切ですが、お客さまに、金銭権を売っていただく、PRしていく営業活動が大事になってきます。いかにお客さまに早くお答えできるか、予約を確定していただけるか、こういったことも「おもてなし」ですから、これからもクラウドならではの利点を活用して利益率を上げていきたいですね。

入力作業をなくす

▼小嶋 旧来型の会計事務所では入力やチェックに多くの時間を割いています。フリーの導入により会計事務所での入力、チェック業務はなくなりますからその分コストを削減するメリットは、フリーを導入するメリットは、

▼竹内 会計事務所にとってフリーを導入するメリットは、

▼小嶋 旧来型の会計事務所では入力やチェックに多くの時間を割いています。フリーの導入により会計事務所での入力、チェック業務はなくなりますからその分コストを削減するメリットは、



同会 竹内 龍太氏
(freeeSMB 事業開発マネージャー)

トが減少します。さらにそのメリットをお客様に顧問料の減額という形で還元することも推進させていただいてあります。

▼竹内 クラウド化はもっと進むべきなのかなと、今後の期待についてお聞かせください。

▼土屋 私どものような料亭、老舗旅館にソーティ化、クラウド化をもっと進めるべきだと思います。料亭、老舗旅館はお客さまの様々な

なりクエストにお応えすることでブランド力が高まります。

一方で、お応え続けることで仕事が複雑に、属人的になっていきます。その複雑な仕事を、ITで効率化できるものと、もっと時間を割くべきものに分類し、効率化すべきはITに任せ、より多くのリクエストに応えられるようにすること、重要なポイントだと思います。



在庫管理ソフトとの連携研究

株式会社 池田 代表取締役の井村辰二朗さん

有機農業を営み、いくつか会社をやっています。フリーを導入したのは、昨年10月です。企業会計を勉強していく中で総務・経理などの管理部門をコンパウンドにして、その分を営業や商品開発に注力し、生産性を高めたいという思いがありました。たまたま北國銀行のコンサルティング部門と話をしていく中で、サポートを得ながら導入しました。

クラウドの大きなメリットは、会社のパソコンだけでなく出張先や会計事務所と情報を共有できることですね。それに簿記だけでなく分析的なものも売上レポート的なものもリアルタイムで見ることができるのがいいです。フリーは他のサービスと連携でき、いろいろな可能性が広がります。今は、棚卸や在庫管理をしているクラウドソフトとの連携について研究しています。